

会議議事録

1 会議名	第5回長岡市総合計画策定委員会			
2 開催日時	令和7年11月7日（金曜日） 午後2時00分から午後4時まで			
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室			
4 出席者名	(委員) 大原委員長 佐々木副委員長 広川副委員長 石坂委員 大島委員 勝身委員 ガーヴィー委員 黒崎委員 近藤委員 佐野委員 高野委員 田中委員 外山委員 ヌルアデリン委員 山岸委員 山田修委員 山田光枝委員 渡辺委員			
	(長岡市) 野口理事（行財政改革担当） 長谷川産業政策監 谷畠理事（土木部長） 五十嵐地方創生推進部長 五十嵐ミライエ長岡担当部長 古田島女性活躍推進担当部長 植村DX推進部長 水内総務部長 大野財務部長 入澤危機管理監 山田原子力安全対策室長 大矢地域振興戦略部長 小池市民協働推進部長 水島福祉保健部長 佐山環境部長 西山商工部長 高野観光・交流部長 波形農林水産部長 太刀川都市整備部長 高頭中心市街地整備室長 新沢会計管理者 江田教育部長 金垣教育部参事 星野子ども未来部長 植木水道局長 近藤消防本部次長 中村政策企画課長 上村政策企画課課長補佐 平野総合計画策定担当係長 中村主任 宮崎主任			
5 欠席者名	草間委員、坂田委員、中野委員、西片委員、樋口委員、駒野委員			
6 議題	1. 第4回総合計画策定委員会での委員意見への対応について 2. 長岡市総合計画素案 3. 指標（KPI）一覧表			
7 審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画原案について説明 ・ 総合計画原案について審議 ・ 委員会内での意見について再度検討し、パブリックコメントを行う 			

8 審議の内容

地方創生推進部長	<p>本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>それでは、ただいまから、「第5回長岡市総合計画策定委員会」を開催いたします。</p> <p>私は事務局の地方創生推進部、五十嵐でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>はじめに、委員長からご挨拶をいただきます。</p>
委員長	<p>本日はお忙しい中ご出席を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>これまで4回にわたる策定委員会で、委員の皆様から次期計画について活発なご議論をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。</p> <p>皆さまのご協力で計画もかなり仕上がってきましたと思っています。</p> <p>第5回目の策定委員会となる本日は、前回のご意見を踏まえて修正を加えた「原案」について、ご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>本日は原案の作成に関わっている市の部局長の皆さんやオブザーバーとして分科会長・副会長の皆さんからもご出席いただいています。</p> <p>委員の皆さんからの質問や意見については、部局長からお答えいただくこととなっていますので、この機会に積極的にご発言ください。</p> <p>策定委員会は本日を含め、あと2回となりました。1月に開催する最終回は本日の皆さんのご意見とパブリックコメントを反映させたものを確認する程度としたいため、本格的な議論は本日の会議を最後にしたいと考えています。</p> <p>ぜひ皆さんから忌憚のないご意見をお聞かせください。</p> <p>本日はよろしくお願ひします。</p>
地方創生推進部長	<p>委員長ありがとうございました。</p> <p>それでは、ここからの議事につきましては、委員長にお願いしたいと思います。</p>
委員長	<p>それでは、議事に入ります。</p> <p>「計画の原案について」事務局から説明をお願いします。</p>
地方創生推進部長	<p>それでは「計画の原案について」ご説明させていただきます。</p> <p>原案では前回の策定委員会にていただいた、計画の素案に対する委員の皆様のご意見を踏まえ、府内の各分科会等において検討・修正し、新たに写真や図表を含めたものでございます。最終的なデザインやレイアウトは今後詰</p>

めてまいりますが、内容の部分についてはほぼ最終形に近いものとなっております。今後は本日のご議論を踏まえてさらに練り上げ、年内にパブリックコメントとして市民の皆様のご意見を伺ってまいりたいと考えております。

まず、「(資料1) 第4回総合計画策定委員会での委員意見への対応について」をご説明させていただきます。第4回総合計画策定委員会で委員の皆様からいただきましたご質問・ご意見につきまして改めて府内の各分科会・各部局にて検討・見直しを行ったものでございます。計画への反映につきましては、「意見に対する対応」に記載している通りでございます。また、原案に反映したご意見につきましては、原案のページと反映箇所について記載しております。

続きまして、(資料2) 長岡市総合計画原案について説明いたします。4ページの第2章 基本構想 第1節 まちのプロフィールの歴史については、前回策定委員会でお示しした素案の段階からさらに肉付けした内容で記載しております。また、4ページから6ページに、新たに長岡市の強みを追加いたしました。これは24ページの政策を推進する5つの視点の視点4の説明に、「本市の強みや特色を生かす」とあるため、本市の強みや特色を明確にするため追加したものでございます。次に28ページの「重要業績評価指標(KPI)」についてご説明させていただきます。前回策定委員会に置いて、委員の皆様から、「施策とマッチしていない」や「定量的に評価できる指標を追加できないか」というご意見をいただきました。これを受けまして事務局でKPIの設定の考え方を整理し、分科会に示したうえで、客観的・定量的に評価できる指標の設定可否について検討を重ね、設定可能なものについて修正のうえ反映したものでございます。中には毎年数値を確認できないという理由から定量的なKPIの設置が難しいものや定量的な指標が適当でないものもございますが、分科会において取組の成果を測るうえで最もふさわしいKPIをゼロベースで再検討・議論したものでございます。なお、KPI設定の考え方につきましては、委員の皆様にも9月11日にご意見の回答とともに送付をさせていただいているところでございます。総合指標につきましては、将来像の達成状況を測ることのできる指標として、市民や事業者、行政などオール長岡の力を結集して達成する指標を設定してございます。また、主要指標につきましては、素案の段階では施策の柱ごとの指標の中から特に重要なと思われる代表的な指標を基本目標ごとに設定しておりましたが、見直しをかけさせていただき、施策の推進により政策の成果や達成状況を測る、より大きな指標を主要指標として設定させていただきました。次期総合計画の施策の柱ごとの指標につきましては、施策の柱の取組成果がほぼ直接反映される指

	<p>標として設定しております。次期総合計画の KPI の数は、現段階で 2 つの総合指標を含めて、合計で 131 となってございます。計画期間においては、このすべてについて毎年度数値を調査し、進捗状況を把握することで施策の成果を確認して参ります。29 ページの「第 3 節 政策」以降では、基本目標を推進するため、それぞれの目標ごとに政策を設定し、政策の目指す姿と、政策に紐づく施策の柱を記載しており、施策の柱ごとに関連する図表や写真を掲載しております。また、施策の柱ごとに現状や課題、主な取り組み、KPI までが一気通貫となっているかなどを分かりやすくする観点から、一連で整理してございます。各分野における現状や課題を踏まえた取り組みにより基本目標及び将来像の実現を目指してまいります。</p> <p>続きまして、「(資料 2 別紙) 指標 (KPI) 一覧表」について説明いたします。議会との協議、第 4 回策定委員会での委員の皆様との議論を踏まえまして、「(資料 2 別紙) 指標 (KPI) 一覧表」を修正させていただいております。「(資料 2 別紙) 指標 (KPI) 一覧表」には、原案に記載の KPI について、中間目標、最終目標のほか、指標の定義や目標設定の考え方なども合わせて記載してございます。原案と合わせてご覧いただけたらと思います。また、今回新たに総合指標及び主要指標につきましては、確認できる範囲で過去実績を参考数値として記載しております。過去の数値のトレンドを把握することで、10 年後の目標設定の妥当性等より明確にお示しできると考えてございます。</p> <p>最後に今後につきましては、本日の策定委員の皆様からのご意見を踏まえ、改めて市の分科会において検討を重ね、11 月 21 日から 12 月 12 日までパブリックコメントを実施し、市民の皆様のご意見を伺ってまいります。委員の皆様のご意見に加え、市民のご意見を集約し、より実効性のある計画を策定してまいりたいと考えております。次回最終回となります、1 月 22 日開催の第 6 回策定委員会で、改めて策定委員の皆様から最終確認をいただけたらと思っております。その後、第 6 回策定委員会でまとめました計画案につきましては、策定委員の皆様から市長へ答申をいただき、年度内に計画を策定してまいりたいと考えてございます。説明は以上であります。よろしくお願ひ致します。</p>
委員長	<p>説明が終わりましたので討議に入りたいと思います。</p> <p>それでは、質問やご意見のある方はご発言いただきたいと思います。</p> <p>資料のボリュームが大きいため、資料 2 「計画の原案」の項目ごとにページを区切ってご意見を伺います。</p> <p>時間の都合もありますので、概ね 1 項目 15 分程度で議論いただきたいと思います。</p>

	<p>なお、会議の時間が限られていますので、発言が足りなかつたり、会議後に気づいた点などがあれば後日事務局へお聞かせください。</p> <p>まず、原案の2ページ「第1章序論」から28ページ「第3章第2節重要業績評価指標 KPI」の記載について、質問やご意見のある方は挙手をお願いします。</p> <p>ご意見が特ないので次に進みます。</p> <p>29ページ以降の「第3節 政策」については、基本目標ごとにご意見をいただきます。</p> <p>資料2別紙の指標、KPIの一覧表についても合わせて確認のうえ、ご意見をお願いします。</p> <p>まず、29ページから60ページの「基本目標1、誰にも優しく寄り添う共生社会のまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。</p>
委員	32ページの写真の説明が間違っているので修正をお願いします。「市民協働フェスタ」ではなく「市民活動フェスタ」でございます。
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他には何かございますか。第3節を担当いただいた、委員に意見があればお伺いしたいと思います。</p>
委員	自殺の影響は、年齢によって原因・状況が全く異なるため、その点ははつきりさせたほうがよいと認識しております。また、自殺を未然に防ぐための相談窓口などの対応策の記載がないと、自殺対策の支援がされていないという誤解を生んでしまうため、今後はそのような取組も記載したほうがよいと認識しております。
福祉保健部長	ご発言の通り、長岡市における自殺の状況は、性別・年代ごとに傾向が異なっており、それについては関係機関とともに分析しております。自殺を防ぐための対応策については、「長岡市自殺対策計画」という個別計画にて記載しているため、総合計画で相対的なことを掲げながら、個別計画と連携して対策を進めていきたいと考えております。
委員長	次に、61ページから85ページの「基本目標2 子ども・若者が夢や希望

	<p>をもち、誰もが学び続けることができるまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。</p>
委員	<p>67 ページにて、課題として「不登校となった児童生徒一人ひとりに寄り添い」とあるが、児童生徒だけではなく、家族を支えることが必要とされており、民間の団体でも家族会が多くなっております。子どもが不登校になると母親が仕事を辞めざるを得ないといった問題が発生するため、家族を支えることに関する記載も追記いただけたとよいと考えます。</p>
教育部長	<p>ご指摘の点、もっともに思います。政策 2－2 の中でどのように書き加えられるのか検討させていただきます。</p>
委員	<p>不登校と特別支援教育の問題は途切れの無い支援が必要だと認識しております。また、基本目標 1 の「誰にも優しい共生社会のまちづくり」においても、引きこもりや障害を持った方々への支援が重要だと認識しております。これらは別の項目として記載されていますが、実際には教育から社会生活への移行までを一体的に支援することが大切です。特に、不登校や引きこもりへの対応、特別支援教育、家族への支援などが接続するような記述があると、より一貫した支援の方向性が示されると思います。</p>
福祉保健部長	<p>ご指摘の点、もっともだと認識しております。引きこもりとなった要因として、不登校や進路の失敗が存在していると認識しております。総合計画においては、これらそれが施策の柱として位置付けられておりますので、それらを関連づけて表現する方法については検討させていただきます。</p>
委員	<p>委員の皆様の意見がしっかりと反映されていると感じました。64 ページの「施策の柱 2」は「ミライエ長岡を拠点にした若者の交流の促進」とされており、KPI は「地域への愛着を理由として長岡に住み続けたい人の割合（10 代～30 代）」となっております。しかし、施策から KPI に至るまでの道筋がやや不明瞭に感じます。人との交流から生まれるつながりが、地域への愛着を育む重要な要素であることは理解しております。また、ミライエでの交流や体験を通じて生まれるつながりが、子どもたちにとって魅力的なものとなっていることも押察しております。ただし、ミライエの利用者の割合を踏まえると、この KPI との対応に違和感がございます。ミライエを拠点とした若者の交流促進から、どのような道筋で KPI 達成に至るのかについてお伺いします。</p>

ミライエ担当部長	もともと、「10代～30代のうち長岡市に住み続けたい人の割合」としておりましたが様々な意見を踏まえてこれを変更し、「地域への愛着を理由として長岡に住み続けたい人の割合（10代～30代）」としました。ミライエ長岡を拠点とすることを想定しており、ミライエ長岡の取組のみがKPI達成につながると考えているわけではございません。全市域を対象として、様々な交流や学びの活動を通して、長岡市への愛着を高めていることを想定しております。現在ミライエを整備していることもあり、象徴的な場所として総合計画にて強調して記載させていただきました。
委員	KPI達成に向けて、ミライエ長岡以外の周辺地域の取組も含めて取り組む、という記載があるだけで、読み手の受け取りが違ったものになると考えております。
ミライエ担当部長	ミライエ長岡以外でも様々な取組を行っておりますため、それらの取組についての記載については検討させていただきます。
委員	63ページについて、KPIは「学校外の学びの満足度」となっておりますが、これ以外にも、学校外の学びに参加した子供たちの変化・成長も見ることができますとよいと思っております。
ミライエ担当部長	学びの講座の数や受講者数、講座のアンケートを記録して、事業ごとにKPIを設定しております。総合計画の施策の柱はそれらの事業を束ねたものでございますので、「学校外の学びの満足度」をKPIとさせていただいております。
委員	時代の変化が激しい時代において、長岡市は今後10年の中で、どのような大人に育つ人材を教育しようとしているのでしょうか。
ミライエ担当部長	学校外の学びにおいては、生き抜く力を持った人材やAIなど時代に対応した人材、産業に貢献する人材を育てたいと考えております。対象や世代、目的が多岐にわたるため、一言で表現するのは難しいところですが、先を見据えて生き抜く力を育むことが根本にあると認識しております。
教育部長	教育委員会では教育大綱を定めており、基本理念や方針を定めたうえで各施策を進めております。大綱では、子どもたち一人ひとりの個性が輝いて幸せな社会をつくり出していける教育の推進を基本理念に掲げており、自分だけでなく他者の幸せを考え、社会や人のために行動できる子どもたちを育て

	るという趣旨のもと、教育施策を進めていきたいと考えております。
委員長	次に、86 ページから 113 ページの「基本目標 3、災害や雪に強く、暮らしやすい安全安心なまち」について、質問や意見のある方は举手をお願いします。
委員	102 ページに関して、「施策の柱 1 鳥獣被害の防止に向けた地域の担い手確保」の KPI が市鳥獣被害対策実施隊隊員数のみとなっております。長岡市では、市民一体となって鳥獣被害対策に取り組もうという動きがあると認識しております。長岡市は市民協働のまちであるため、KPI も隊員数だけに絞るのではなく、市民の皆様も鳥獣被害対策に意識を向けられるものがあるとよいと考えておりますが、いかがでしょうか。
農林水産部長	鳥獣被害対策については、地域一体となって取り組むのが数年来の状況だと認識しております。KPI の項目につきましては、あくまで象徴的な指標として設定しており、まずは重点的に取り組むべき事項として位置づけております。地域での取組はすでに相当程度浸透しており、意識の高まりにより、研修会を開催しなくとも地域が自主的に連携して対策を進める状況にございます。一方で、担い手の減少は課題であり、今後も体制の維持・強化に努めてまいります。また、KPI の数値が下がっている点につきましては、単純な減少を意味するものではなく、実際に活躍できる人材の割合を高めることを重視した結果でございます。数値上は減少しておりますが、捕獲などの実際の活動力（捕獲圧）が低下することではなく、限られた人数でも効果的に活動できる体制づくりを進めております。KPI の数値を単に増加させることよりも、実際に活動できる人材の質と体制の充実を重視しており、現実的な状況を踏まえた設定であることをご理解いただければと思います。
委員	111 ページにおいて、「高速道路網へ 5 分以内に到達できる面積」を 115.5 k m ² として KPI を定めております。KPI の考え方として、大積スマート IC が完成すると目標である 115.5 k m ² に届くとのことですが、目標の中には大積スマート IC 以外も含まれるのでしょうか。
理事	長岡ニュータウン連絡道路などの幹線道路も含まれております。
委員長	次に、114 ページから 134 ページの「基本目標 4、産業が成長し活力を創出するまち」について、質問や意見のある方は举手をお願いします。

委員	全般的な内容は良いと思います。117 ページの「施策の柱 2 官民連携による企業の DX 推進」の KPI が企業の DX の取組進捗度となっておりますが、いち企業の進捗度を KPI として設定していると誤解される恐れがあるため、「DX 推進企業の割合」などに記載を修正いただけますと幸いです。
商工部長	KPI の名称について、ご意見を反映し、記載を修正させていただきます。
副委員長	117 ページについてアルファベットの半角・全角が混じっているので、揃えたほうがよいと思います。
委員	123 ページについて、起業そのもの自体は重要ですが、その後の伴走支援が少ないという意見が若い方から出ており、そのような支援が増えるとよいと思っております。今後、日本のスタートアップや学生起業は増えていくと予想されますが、その中で残っている企業が少ないとその点を指摘されてしまうため、起業後の支援施策等を追記いただけするとよいと思います。
商工部長	起業からその事業の継続まで支援しております。長岡市にはファーストペンギンプログラムという、アントレプレナーシップの教育から起業の支援、起業後の伴走支援まで一貫した支援を提供しております。総合計画の KPI は起業件数としておりますが、起業した会社の継続には課題を感じているため、先輩起業家の方との接点の提供やコミュニティづくり、起業のメンターの設置などに取り組んでおります。
委員	起業として占い師やコミュニティスペースを取り扱う事例が増えていると感じておりますが、それが増えすぎないように留意いただきたいです。
商工部長	スマールビジネスを展開されている方の中にそういった方もいるのは存じ上げておりますが、市としては業種を差別することなく、支援して参りたいと思います。
委員	124 ページについて、施策の柱として「高度外国人材等の活用促進」が掲げられております。この「活用」という言葉は人材として使われている、という意味に受け取れますか、「基本目標 1 誰にも優しく寄り添う共生社会のまち」とギャップがあるように感じます。また、外国人の人数自体を 10 年間で倍にするとございますが、保守的な数値であるように感じます。まち全体

	としてイノベーションを生むであれば、総合計画全体を通して、KPI の数値を今まで通り増やすだけでなく、リスクを負った計画も含めたほうが良いのではないでしょうか。
委員長	「高度外国人材等の活用促進」については、「活用」ではなく「活躍」といった言葉に変えればよいのでしょうか。
委員	外国人材からの意見をもらうシステムがあればその答えも出るのではない でしょうか。
商工部長	長岡市には 2,800 人ほど外国人がおりますが、高度外国人材や技能実習生など多様な人材が含まれます。その方々が暮らしやすいように、国際交流センター地球広場がございまして、多文化共生の施策を展開しております。「施策の柱 4 高度外国人材等の活用促進」の KPI につきましては、外国人の方々に長岡へお越しいただき、就業していただくことで、長岡市の労働力不足を補うことを目的として設定しております。一方で、そのような方々が長岡で生活していく中では、活躍の場面だけでなく様々な課題が生じることも想定されます。そうした状況を踏まえ、イノベーションの推進を意識しながら、地球広場を中心として施策を展開しているところでございます。
観光・交流部長	国際交流の観点からご説明させていただきます。国際交流課としては長岡市在住の日本人の方を市民、外国人の方を外国市民と呼称し、外国人の方も市民の一人であるという認識のもと各施策に取り組んでおります。市内在住の外国人は非常に増えている状況にございます。長岡市民がその方々を受け入れるには、市民の中での国際理解を深めることが重要だと認識しております。それを深めることで、将来的には外国人市民の方が活躍できる場を長岡市に作り上げていきたいと考えております。
委員	123 ページの「施策の柱 3 若者や女性など多様な感性を活かした起業・創業支援」の KPI は「起業支援センターCLIP 長岡の支援による起業件数」となっております。これを起業件数ととらえるのであれば、この KPI はふさわしくないと考えます。私自身が個人で起業した際、CLIP 長岡には相談しなかったようにそれを利用せずに起業される方も多く存在するからです。起業することよりも事業を継続することが重要だと思います。CLIP 長岡が起業支援・伴走支援することは有意義なことだと考えておりますので、起業件数よりも継続数も含めた KPI を設定できるとよいと考えます。

商工部長	起業件数よりも、その内容や起業後の伴走支援が重要であるというはご指摘の通りだと考えております。ただ、市として把握できる数が記載の数値でございます。CLIP 長岡以外にも金融機関やコンサルタントなどの支援を受けて起業している事例が多く存在しているのは認識しておりますが、その件数を市として把握できていないのが現状でございますため、CLIP 長岡の支援による起業件数を KPI としていることにはご理解いただきたいと思います。
委員長	次に、135 ページから 153 ページの「基本目標 5、にぎわいや交流が生まれる魅力あるまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。
委員	ふるさと納税リピーターの納税の目標値が少ないという印象を受けました。富裕層の方に対して大きな影響があると認識しているため、倍程度にしてもよいかと思います。
地方創生推進部長	ふるさと納税にはどの市町村も取り組んでおり、右肩上がりで上がっており、長岡市のふるさと納税額もあがっております。一方で、民間事業者によりますとふるさと納税額はそろそろ頭打ちになる、という試算も出ているところでございます。また、近年長岡市のふるさと納税額が上がっている背景には、昨今のコメ不足によるものございます。さらに、ふるさと納税を取り扱っている WEB サイトでポイントが認められなくなったため、10 月以降はふるさと納税額が下がっております。そのような状況もあってより現実的な数値を KPI として設定させていただきました。委員のご意見も参考にさせていただきますが、ふるさと納税の状況が苦しくなっていることにもご理解いただけますと幸いです。また、リピーターを増やすということは、長岡に継続的に関心を持ち、関係性を深めていただくことを意味しております。単に一度の商品の購入にとどまらず、長岡を気に入って他の商品にも関心を持っていただき、訪問や交流、さらには関係人口や移住・定住につながることを目指しております。そのためにも、リピーターという指標を重要な要素として位置づけております。
委員	149, 150 ページの KPI について、文化芸術・スポーツに関わった人の割合とございますが、関わったというのはどのようなことを指すのでしょうか。
市民協働推進部長	スポーツについて、スポーツ庁も似たような調査を行っておりまして、そこでは「プロ野球を TV でみた」までといった細かい粒度まで調査できており、

	<p>その調査では約8割の人がスポーツに関わったという結果が出ておりました。一方長岡市での調査はそこまで細かい粒度の選択肢は用意できなかったため、国より数値が落ちている状況にございます。文化振興も含めて本文の注記等を工夫してわかりやすい表現を心掛けたいと思います。</p>
委員	<p>「施策1 豊富な資源を活かした観光誘客の促進」について、146ページには道の駅来館者数の推移が掲載されております。長岡市としては4つの道の駅を観光の拠点と位置付けているものと認識しております。しかしながら、長岡花火館の売上が突出している一方で、特に川口および和島の売上は伸び悩んでいる状況です。KPIとして「延宿泊者数」を掲げておりますが、こうした現状を踏まえ、既存資源へのテコ入れをどのようにお考えかお伺いいたします。</p>
観光・交流部長	<p>昨今の観光客のニーズとしては食を目的とする傾向がございますので、魅力ある長岡の食を中心に各道の駅への集客を図りたいと考えております。観光業の収益増加のために、これまで日帰りであっても特定のイベントへの多くの観光客の参加を狙う傾向がございましたが、日帰りのお客様による収益効果は低く、宿泊機関・滞在期間が長ければ長いほど収益性が高まります。現在、食を中心とした滞在時間を延伸させる方法を検討してございまして、川口地域の古民家を活用し、市外からの収益を獲得することで観光振興を進めていきたいと思います。</p>
委員	<p>147ページの主な取組において、「共働」という言葉を使った意味をご教示ください。</p>
観光・交流部長	<p>観光振興において最も重要なものの一つに共感という言葉がございます。「共に」という意味合いを重視して。「共働」という言葉を用いました。言葉遣いについては内部で調整させていただきます。</p>
委員	<p>「共に働く」は単にそれぞれの役割を持って一緒に働くことを指し、「協力して働く」には同じ目的のために協力して働くことという明記がございますので、長岡市らしい総合計画という観点では「協働」という言葉を用いるのが良いと考えております。</p>
委員	<p>グラフの軸の上に単位を記載したほうがよいと思います。146ページのグラフは少し見づらく感じます。全体を通してイノベーションという言葉が使</p>

	<p>われておりますが、それが独り歩きしている印象をうけました。長岡駅周辺では新規施設が開業後短期間で閉鎖に至る事例もございます。次回以降は具体的なイノベーションの好事例を盛り込んでいただけるとありがたいです。</p>
地方創生推進部長	<p>グラフについては全体構成の中で精査いたします。また、大文字小文字、全角半角などの表記ゆれがございますので、全体構成の中で修正したいと思います。イノベーションを推進してきた中で、その成果が見えにくい状況は課題であると考えております。その中でも、特に力を入れている取組を示していく必要があると認識しております。「変わられ！宣言」では、非常にチャレンジングな目標が設定されており、議員協議会でも高いハードルを懸念する声がございました。イノベーションは単なる技術革新にとどまらず、役所で市民を巻き込んで変革を起こすことも含まれますが、それも見づらいということだと思いますので、その可視化や表現の方法については、今後さらに精査してまいります。また、まちなかでは新しい店舗が出店してもすぐ撤退するなど、変化が定着しにくい面もございます。市民の皆様に「イノベーションが進んでいる」と実感していただけるよう、総合計画の進展を通じてご注目いただきたいと思います。</p>
中心市街地整備室長	<p>昭和の終わりから平成の初めにかけては、商店街の活性化が課題となっていましたが、その後は徐々に改善が進んできたと認識しております。しかしながら、コロナ禍の影響もあり、まだ十分に回復しきっていない状況にあります。貸す側と借りる側の双方の状況を踏まえながら、現状を把握しているところです。今後も街を使っていただきながら、引き続き活性化を図ってまいりたいと考えております。</p>
産業政策監	<p>内閣府、東京大学と協力して駅前にイノベーション地区を制定しておりますので、このように人材集積や産学連携に取り組んでいる街だということを標榜していきたいと思います。</p>
委員	<p>DXによる効率的な除雪体制の推進は素晴らしいと感じております。この技術を活用しながら、人を増やす具体的な体制をとっているのが特によいと思います。他の分野でも同様のことはできるのではないかと思います。</p>
理事	<p>除雪において高齢化によるオペレータ不足が課題であり、除雪オペレータの免許取得補助利用者数をKPI といたしました。様々な資格取得に取り組むとともに、国土交通省や NEXCO が取り組んでいる除雪の一部自動化にも追随</p>

	して取り組んでいきたいと思います。
委員長	最後に、154 ページから 163 ページの「基本目標 6、市民の期待に応え、信頼される行政を推進するまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。
委員	総合計画を着実に推進するためには、財政基盤や時代の変化に対応した行政運営が必要になると認識しております。そのあたりの考え方や具体的な取組についてご意見をお伺いします。
理事（行革担当）	<p>ご指摘の通り、総合計画の着実な推進のためには、しっかりとした行財政基盤がベースにあることが大切であると認識しています。現在、市では令和 8～12 年度を計画期間とする「第 2 期持続可能な行財政運営プラン」を策定中です。このプランは総合計画の着実な推進のうえで土台となる強固な行財政基盤をつくるための計画であり、「基本目標 6 市民の期待に応え、信頼される行政を推進するまち」を実現するためのアクションプランとして位置付けています。このプランでは単なる支出の削減ではなく、新たな行政課題や市民ニーズに対応できる行財政基盤への体質改善、行政運営の最適化、スマート行政への転換に向けた取組をまとめることにしています。そしてこのプランでは、今後 5 年間で約 30 億円の新たな改善効果額を生み出し、財政調整基金を一定水準確保することを目指します。社会経済情勢が大きく変化する中で、しっかりとした行財政基盤を確保して、総合計画に掲げる政策の着実な推進を下支えしてまいりたいと考えています。</p> <p>「第 2 期持続可能な行財政運営プラン」の策定の背景・目的については市政だより 12 月号で市民のみなさんにわかりやすく説明したいと思います。</p>
委員	職員の時間外勤務の KPI は職員全体の数値となっておりますが、これは職員一人当たりの数値の方がよいのか、吟味していただきたいです。また、市民 1 人当たりの管理運営費を KPI として設定しておりますが、10 年後には物価が異なりますので、この金額は実質なのか名目なのか明確化したほうがよろしいかと思います。
総務部長	職員の時間外勤務の KPI の表現については再度検討させていただきたいと思います。
財務部長	公共施設については、公共建築物適正化計画という計画を策定しております

	す。この計画は、市内の公共建築物の適正化を図ることを目的としております。人口減少が進む中で、これまでと同規模の公共施設を維持していくことは困難な状況にあります。物価上昇など、今後の経済動向も考慮する必要がありますが、適正化計画を着実に実行することで、現状の一人当たりの公共施設管理運営費を超えないことを目標として取り組んでまいりたいと考えております。
委員	サウンディング型調査、ABWとはどのような意味でしょうか。
財務部長	サウンディング型調査とは、私有地や使われなくなった公共建築物を売却・貸付する際、どのような条件であれば買い手が現れるか調査することを目指します。
総務部長	ABWとは仕事の進め方に合わせて最適な場所を選びながら働いていくという新しい価値観を指します。長岡市においては、「働く場所を自ら選択し、時間を有効に活用する質の高い働き方」というような定義をして、テレワーク、モバイルワーク、集中ブースやコミュニケーションスペースの取入れ等を進めています。具体的にはさいわいプラザに移転した土木部のオフィスがそのような形に変化しております。今後はミライエ長岡の商工部や観光交流部のオフィスもそのように整備していきたいと考えております。ABWについては働く方のモチベーション上昇や残業時間の減少、コミュニケーション機会の増加といった効果がございますので、市の職員が能力を存分に発揮できるような体制を整えていきたいと考えております。
委員	説明を受けないと意味が解らない言葉だと思いますので、全体的にわかりやすい言葉を使うか注釈をつけるといった対応していただけますと幸いで
委員	KPIの一覧表を見ると出典がどこか確認できる一方で、総合計画の原案には出典が記載されておりません。可能であれば追記いただきたいと思います。
地方創生推進部長	その点の対応についてはご意見をいただきながら精査させていただきたいと思います。
委員	総合計画は紙媒体で発出するのでしょうか。市民がインターネットを使って検索できるのであれば、そこにリンクを貼っていればわかりやすくなるの

	ではないでしょうか。
地方創生推進部長	紙媒体での発出件数は減らしますが、紙媒体で閲覧される方もいるため、対応できるようにいたします。基本的なデータベースで誰でもアクセスできるように整備いたします。
委員長	最後に全体を通してご発言のある方はいませんか。
委員	KPI の数値の中で現状維持の数値が複数ございます。この KPI については、累積の表現と年度ごとの表現が混在している箇所が見受けられます。表現については部署ごとの事情があるかと思いますが、不統一であることは少し気になりました。
委員	太陽光に逆風が吹いているため、過度に前のめりにならない方が良いかと思います。
委員長	最後に副委員長から意見を頂戴したいと思います。
副委員長	様々なご意見いただきましてありがとうございました。本日の質問が細かい内容が多かったように、まとめ方や見せ方としてよいものができるがりつあると感じております。施策と KPI の数値が一致していないものもございますが、パブリックコメントも反映して最終版になるのを楽しみにしております。メリハリをつけて総合計画の目玉があるとよいと考えます。その候補になるのはイノベーションだと思います。長岡市として力を入れるものが読み手に伝わるように、イノベーション部分を強調して盛り込んでいただけると、一層魅力や期待感が高まる内容になると感じております。また、本市の政策の基本性格上、安全や教育といった分野は欠かすことのできない重要な要素であり、「やり遂げる」というメリハリがあると、よりよい計画になるのではないかと思います。
副委員長	みなさまから意見を頂戴したうえで原案まで昇華できたのは大変ありがたいことだと思っております。議論をお聞きしていても、これまでの議論の全体観をひっくり返すようなものなく、総合計画への理解が進んだ内容になっていると感じております。次回策定委員会まで結構ですが、総合計画に魂を吹き込むには実効性のある PDCA 管理が重要でございます。どのように総合計画を実効性のあるものにするのか、PDCA を回していくのかということを

	<p>明確にしていただきたいと思います。1年ごとにKPIの進捗を管理して、それを市民に開示していくことになるかと思いますが、開示したうえでどのように市民から意見を取り入れて、修正するのかという方向性についても次回策定委員会にてお伺いしたいと思います。また、行政としての専門用語には注釈をつける、KPIの根拠はリンクをつけるなど読みやすさを確保することも重要だと認識しております。</p>
委員長	<p>長時間にわたり活発なご議論をいただきありがとうございました。</p> <p>先ほど事務局から説明がありましたように、本日の皆さんからのご意見については、改めて市の分科会において検討し、パブリックコメントを経て、次回最終回となる第6回策定委員会において、最終確認をいただく予定です。</p> <p>それでは、本日予定していた議事はこれで終了となります。</p> <p>司会進行を事務局にお返しします。</p>
地方創生推進 部長	<p>委員長、進行をありがとうございました。</p> <p>最後に、「4その他」についてです。</p> <p>繰り返しになりますが、時間の都合上、ご発言いただけなかつた方や、会議後に気づいた点などがあった方は、事務局から資料送付の際にお送りしております、「長岡市総合計画原案に対する意見について」にご記入のうえ、11月10日（月曜日）17時までに事務局へお送りいただきたいと思います。期間が短く大変申し訳ありませんが、スケジュールの都合上、ご理解ご協力をお願いいたします。</p> <p>次回、最終回となる第6回長岡市総合計画策定委員会は、新年1月22日（木曜日）午後3時から2時間程度を予定しております。</p> <p>最終回では、市長へ答申する最終的な「計画案」について、委員の皆様からご確認いただきたいと考えております。</p> <p>また、次回の策定委員会では計画が完成した後の進捗管理などについて市議会議員の皆様も交え、意見交換を予定しております。この計画を実効性あるものとしてしっかりと推進していくための方策についてもご意見をいただければと思います。</p> <p>時期になりましたらご案内を送付させていただきますので、あらかじめご予定をお願いいたします。</p> <p>策定委員会から市長への答申につきましては、現時点では2月4日水曜日午前10時から予定しております。委員長、副委員長から答申していただく予定ではありますが、ご都合がつく委員の皆様からは同席いただければと存じます。後日正式な通知をさせていただきます。</p>

	本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。 これをもちまして、第5回長岡市総合計画策定委員会を閉会いたします。
9 会議資料	別添のとおり